

2019国際シンポジウム

激化する災害対応としての防災集団移転 多様性とジェンダー視点から

日本では、2011年の東日本大震災以降、被災地において高台などへの防災集団移転が行われています。アメリカにおいても Managed Retreatと呼ばれる大河川の洪水や高潮災害の危険地帯から町を移転する防災政策が進められてきました。同様に、アジア諸国においても防災集団移転や復興まちづくりが、地方政府や市民社会団体などにより行われています。本シンポジウムでは、防災集団移転と復興まちづくりの国際比較を通じて、政策的課題と災害対応の妥当性や有効性を検証します。その中で特に、多様性とジェンダー視点に立つことの意義とチャレンジについて考えます。

日時

2019年11月20日(水)
13:00～16:00

定員

先着100名
(同時通訳有)

参加費
無料

会場

世界銀行東京事務所セミナールーム 東京都千代田区内幸町2丁目2-2 富国生命ビル 14階

【第1部】13:00～13:25

開会あいさつ

- ・ 世界銀行駐日特別代表 宮崎成人
- ・ 国際協力機構(JICA)

基調講演

- ・ 男女共同参画と災害・復興ネットワーク(JWNDRR)代表 堂本暁子

【第2部】13:40～16:00

パネルディスカッション

アメリカ、日本、ネパール、フィリピンなどの事例に基づいて防災集団移転と復興まちづくりについて議論します。

パネリストと、各発表テーマについては、裏面をご覧ください。

お申込み

申し込み：氏名・連絡先を記入しFAX 03-6435-6355 又は

E-mail: saigai.gender@gmail.com まで

お問合せ：男女共同参画と災害・復興ネットワーク(JWNDRR)

芝公園オフィス TEL&FAX 03-6435-6355



イリノイ州グラフトン ミシシッピ川の洪水



石巻市北上地区での調査

【基調講演】

「男女共同参画と防災・減災・復興」

堂本暁子

男女共同参画と災害・復興ネットワーク代表

【パネルディスカッション】

1. 日米比較研究の概要と調査結果

石渡幹夫

JWNDRR運営委員、JICA国際協力専門員、

2. アメリカと日本における防災移転の現状と課題

ニコラス・ピンター

カリフォルニア大学デービス校教授

3. ネパールにおける復興まちづくり

ルマンティ・ジョシ

LUMANTI プログラムオフィサー

4. 世界銀行による包摂的な防災への取り組み

迫田恵子

世界銀行防災専門官

5. フィリピンにおける参加型土地利用計画支援

荒仁 JICA社会基盤・平和構築部

都市・地域開発G次長

モデレーター： 田中由美子

JWNDRR副代表

城西国際大学招聘教授

共催：

- ・ カリフォルニア大学デービス校
- ・ 男女共同参画と災害・復興ネットワーク (JWNDRR)
- ・ 独立行政法人国際協力機構 (JICA)
- ・ 世界銀行東京防災ハブ

なお、本シンポジウムは、国際交流基金の助成により2018～2019年度、カリフォルニア大学と男女共同参画と災害・復興ネットワーク (JWNDRR) が共同で実施した、日本とアメリカにおける合同調査研究の報告会として実施するものです。



日米合同研究チーム イリノイ州グラフトン

男女共同参画と災害・復興ネットワーク (JWNDRR)

2011年東日本大震災を契機に全国の150以上の団体が立ち上がり連携を強化するために設立された。各種シンポジウムの開催や広報活動、ロビイング活動などを通じて、政府や地方自治体、企業、市民組織に対し、ジェンダー・多様性の視点に立つことの重要性を訴えてきた。2015年3月に仙台で開催された第3回国連防災世界会議で採択された仙台防災枠組の策定過程においても、ジェンダーと多様性の視点を取り入れるよう提言。2016年には、世界津波の日制定を記念した国際シンポジウム「ジェンダー・多様性の視点からの復興を目指して」を開催した。2017年には、世界防災フォーラム/ダボス会議@仙台、2018年には第8回アジア防災閣僚級会議(モンゴル)においてもサイドイベントを開催した。アジア太平洋地域のDRRジェンダー・ステークホルダー・グループとしても活動している。

(URL: <https://jwndrr.org/>)